

Be Good Boys ~大人の遊び場 / FIT PLUS

HAWAII BUNPEI MECHANIC

よく客に美味しいレストランを紹介してと言われて、案内役にもなった。「今晚、おいしいお店に行きたいんですが、どこか教えてくださいませんか」と聞かれると、俺はこう答える。「あの店のマヒマヒはすごくおいしいですよ。ステーキもね。」基本的にワイキキのお店はどこでもこの二つはメニューにのっている。そしたら、「英語できなくても大丈夫ですか?」と聞かれたら、「アー、それはまずいですね」と言う。「じゃあ一緒に来てくれませんか?」そんな日はたくさんおいしいものを食べることができた。

仕事時間はまず朝8時から10時まで。それから海に一番ローカルが入らない暑い昼の時間、ワイキキに2、3時間入ってサーフィンをしていた。海から上がって、もう一度、午後2時から4時ぐらいまで、ペディキャブの仕事をした。すごく楽なパターンにはまり込んでしまっていた。

その上に、道でビラを配っていたインドの宗教ハーレクリシュナの信者と仲良くなると、彼らが毎日俺にベジタリアンのランチを届けてくれた。それと、日本人の観光客は食券を持っている人が多かった。日本に帰る前に残った食券をくれて、俺は毎朝ホテルのブッフェを味わった。でもこれは、俺のおしゃべりのおかげで出来なくなってしまった。ほかのドライバー達が同じ手を使うようになって、ある朝食べにいったら、何人のドライバーがブッフェで食べていた。それからちょっとしたら、ドライバーはブッフェに入れてくれなくなっていた。

1978年のワイキキでは、海岸にあるサーフボードラックをすぐに借りることができた。今みたいに何ヶ月待ちの予約はなかった。でも、取り外しのフィンやパワーコードは付けっぱなしにすると翌日

の朝には盗まれてしまったので、フィンを外し、パワーコードは使わないようになってしまった。

しかし、こんなハワイの楽な生活は自分をダメにすと思った。ハワイでずっと住むのも良かったけど、何かその時、俺はまだ22歳だったからかも知らないけど、このまま、あまり長くハワイにいると、自分がだめになると思ってしまった。本当に思った。そして貯めたお金を持ってカリフォルニアに向かった。

それから何年か後、ハワイの道からペディキャブは消えた。噂によると、タクシー会社の圧力に負けたようだ。楽しいハワイの文化が消えてしまったようで、寂しかった。

余談だが、オレがちょうどハワイにいる間、カントリー・コンフォートのメンバーのひとり、ビリー・カアイが亡くなった。毎日のようにハワイのラジオ局は彼らの曲をかけていた。俺はそれまで、ハワイのバンドはセシリオ・アンド・カポノかカラパナしか知らなかったが、これを機にカントリー・カンフォートを知った。彼らをライブで見るとは出来なかったが、レコードを買った。西海岸の音楽とハワイの伝統的なスラックキーギターを混ぜた、新しいハワイの音楽の世界を刻んでいったのが彼らだった。そのバンドには、自然の海岸を守ろうというメッセージをのせた「WAIMANALO BLUES」という曲がある。それからワイマナロは俺の一番好きな海岸になった。今もハワイへ行くたびに足を運ぶ。